

6 学年保護者の皆様

仙台市立吉成小学校

校長 菊地 博

全国学力・学習状況調査の結果分析と学力向上に向けた今後の取組について（お知らせ）

さわやかな初秋の季節となりました。保護者の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日ごろから本校の教育につきましてご理解とご協力をいただき、お礼を申し上げます。

さて、4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果（8月下旬学校着）と今後の学力向上に向けた取組についてお知らせします。個人票は、本日封筒に入れてお子さんに配付しました。個人票を受け取りましたら「受取書」を担任にご提出ください。あくまでも、この調査により測定できるのは学力の特定の一部であることをご理解の上で、結果を受け止めていただくようお願いいたします。

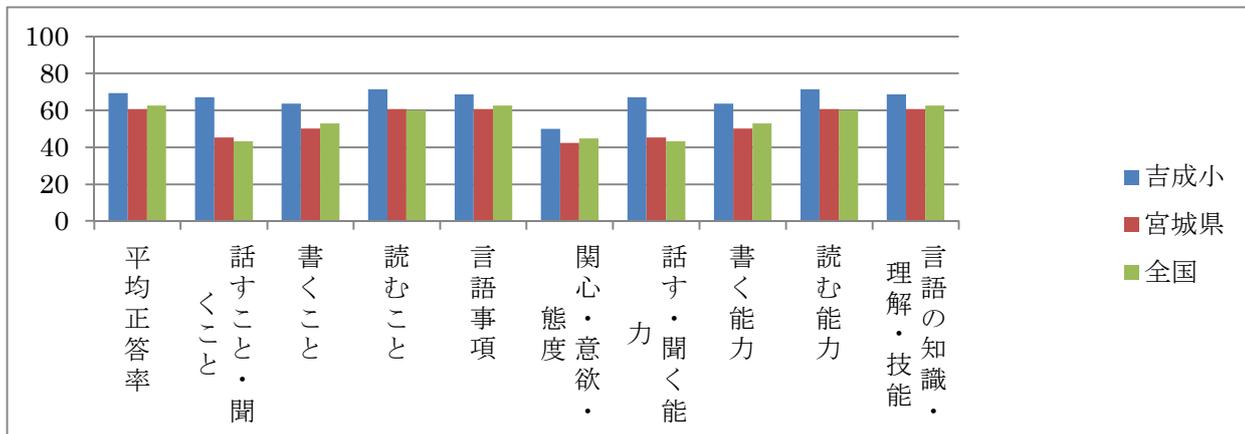
今後も、両調査の結果を踏まえ、次に示す学力向上に向けた具体的な学習指導の工夫や改善に努めてまいりたいと思います。

1 全国学力・学習状況調査結果の概要

(1) 国語 A：主として「知識」に関する問題の平均正答率

☆ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

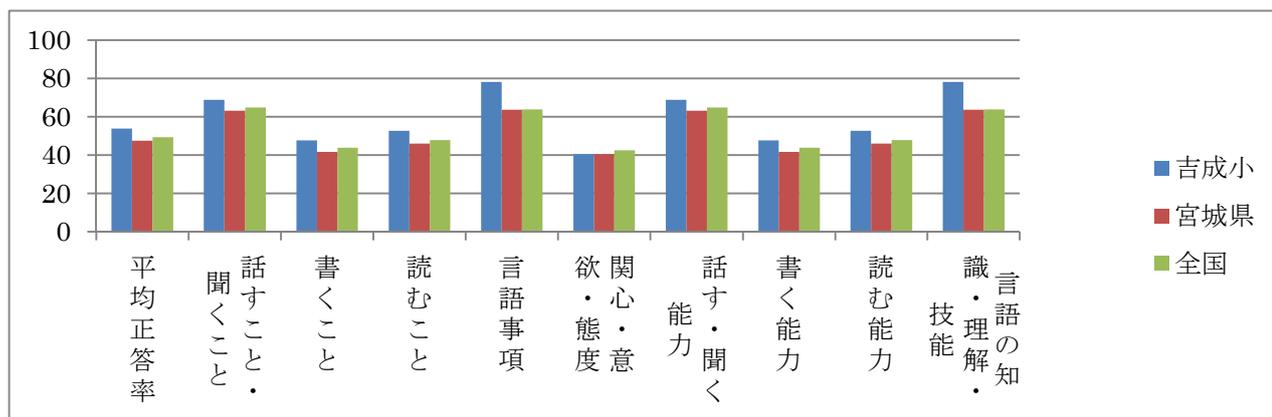
	平均正答率	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語の知識・理解・技能
吉成小	69.4	67.2	63.7	71.4	68.6	50	67.2	63.7	71.4	68.6
宮城県	60.8	45.4	50.1	60.7	60.8	42.4	45.4	50.1	60.7	60.8
全国	62.7	43.2	53	60.1	62.6	44.9	43.2	53	60.1	62.6



(2) 国語B：主として「活用」に関する問題の平均正答率

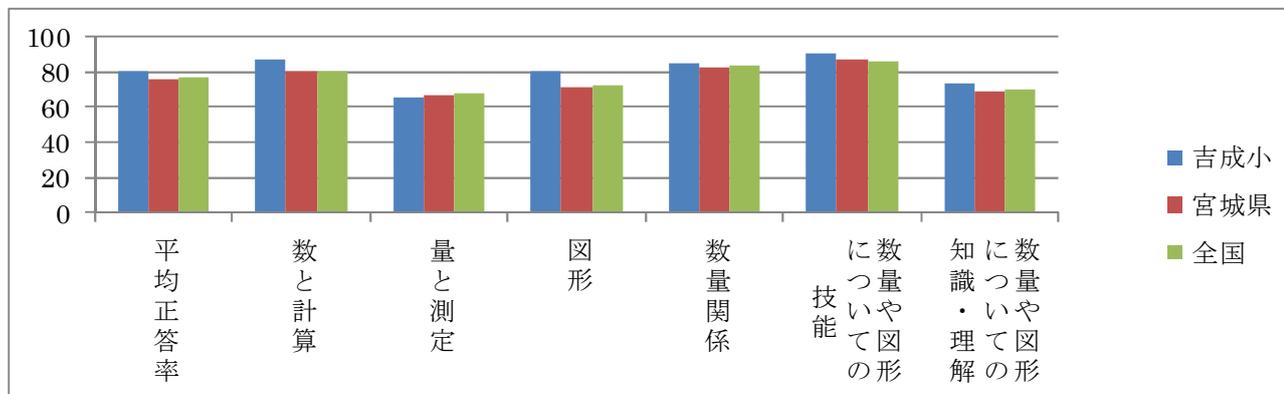
☆ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

	平均正答率	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語の知識・理解・技能
吉成小	53.9	68.8	47.7	52.7	78.1	40.6	68.8	47.7	52.7	78.1
宮城県	47.6	63.1	41.7	46.1	63.7	40.6	63.1	41.7	46.1	63.7
全国	49.4	64.8	43.8	47.9	63.8	42.5	64.8	43.8	47.9	63.8



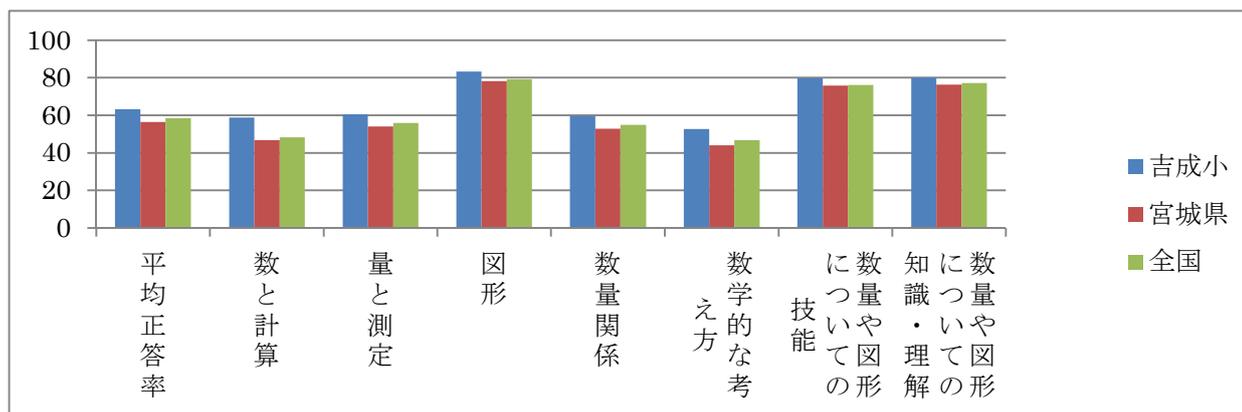
(3) 算数A：主として「知識」に関する問題の平均正答率

	平均正答率	数と計算	量と測定	図形	数量関係	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
吉成小	80.8	86.7	65.6	80.2	84.8	90.8	73.6
宮城県	76.3	80	66.7	70.9	82.7	87	68.5
全国	77.2	80.2	68.3	72.5	83.4	86.2	70.5



(4) 算数B：主として「活用」に関する問題の平均正答率

	平均正答率	数と計算	量と測定	図形	数量関係	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
吉成小	63.2	58.9	60.5	83.3	59.6	52.7	79.7	80.1
宮城県	56.5	46.7	54	78.2	52.9	44.1	75.8	76.4
全国	58.4	48.3	56	79.3	54.9	46.8	76.1	77.2



2 全国学力・学習状況調査における全体的傾向

<国語>

- 「知識」問題、「活用」問題共に教科全体で、県・全国の平均正答率を上回る良好な結果となっています。国語B：「知識」に関する問題の観点別では、「話すこと・聞くこと」の領域が24ポイント全国平均正答率より上回っています。ただし、国語B：「活用」の観点別では、「関心・意欲・態度」が、全国平均42.5%に対して、40.6%と1.9ポイント低くなっています。

<算数>

- 算数A：「知識」の「量と測定」を除き、A「知識」、B「活用」問題共に、教科全体、各領域・観点で、県、全国の平均正答率を上回っています。ただし、算数A：「知識」の「量と測定」の領域は、全国平均を0.9ポイント下回っています。

<児童質問紙の結果概要>別紙参照

- 質問に対する選択肢の中で「どちらかといえば当てはまる」まで入れると、県・全国よりも良い結果、又は同程度の割合になるものがありました。特に、児童の生活に関わる設問では、(5)「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と答えた児童は全国(公立)の割合より、9.8ポイント、(23)「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている」と答えた児童は9.6ポイント、(43)「人の気持ちが分かる人間になりたい」と答えた児童が5.2ポイント、(44)「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた児童が8ポイント、(45)「人の役に立つ人間になりたい」と答えた児童が8.7ポイント、それぞれ下回っていました。

4 今後の取組について

今回の全国学力・学習状況調査の結果から、本校児童（第6学年）の学力の定着状況は概ね良好であると言えます。「知識」「活用」の問題、学習状況調査の結果から下記のようなことに取り組んでいきたいと思えます。

<国語>

「目的や意図に応じ、複数の内容を関係づけながら自分の考えを具体的に書く」問題などに課題がみられました。

このことを踏まえ、目的や意図に応じ、文章や話の内容を的確に把握したり、読み取った内容について自分の考えをまとめたりする学習場面を、授業の中に意図的に取り入れながら学習を進めていきたいと思えます。

また、社会や総合的な学習の時間で、読み取った資料をまとめたり、復興にむけてマガジンを作成したりしながら、興味・関心・意欲を高めていくことができるように指導していきます。

<算数>

「単位量あたりの大きさの求め方」に課題があります。面積と人の数が違う場合の混み具合を比べる問題の正答率がやや低かったです。単位量あたりの大きさの意味を理解し、求め方に習熟することが必要です。普段の生活の場面を想定しながら問題をつくり、できるだけ多くの課題に取り組ませていきます。少人数指導などを生かしながら、量と測定の問題をしっかりと捉えることができるように丁寧な指導を行っていくことを大切にしていきます。

<生活面>

○ あいさつは、協働型学校評価の重点事項の一つとして取り組んできています。年間を通して、各学年であいさつ運動を実施したり、あいさつ運動のキャラクターをつくったりしながら、学校評議員の方々のご協力を得て、地域の方々に呼びかけています。（42）「近所の人に会ったときは、挨拶をしています」と答えた児童が、昨年度よりもふえてきていますし、全国と比較しても2.9ポイント上回っています。今後も「あいさつ」の指導をとおして、より一層の習慣化を図っていききたいと思えます。

○ 近年、携帯電話やスマートフォン、パソコンなどに関係した事故や事件が多く発生しています。情報機器の安全な使い方を知り、危険な事故に遭わないように本校でも情報モラルについての学習を実施する予定であります。お子様の安全を守るために、ご家庭でもお子様と一緒に、使用している情報機器の使い方の約束を決めていただければと思えます。ご協力お願いいたします。

○ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童が、68.2%にとどまっています。「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童が12.1%いたのも、残念なことです。今年度も「いじめ調査」を実施し、いじめに対するの改善を図ってきています。今後も「いじめは絶対に許されないことである」という指導を徹底していくとともに、安心して過ごせる学級づくり、安心して相談できる環境づくりにも努めているところです。

また、人間関係や心の持ち方など、人間としての生き方そのものに関することについては、家庭での働きかけも重要です。ぜひ、ご家庭でも話題にしていきたいと思えます。

○ 市の生活学習状況調査の結果でもお知らせしたとおり、「たくましく生きる力育成プログラム」等の活用、道徳教育、自分づくり教育、総合的な学習の時間の充実を図りながら、他者と「かかわる力」、「自己の成長を促す力」、「情報を取捨選択・活用する力」、「計画を立案・実行・修正する力」、「自己の気持ちをコントロールする力」を育てていきたいと思えます。